

山の百花

滝尾 半田 隼子

【45】オキナグサ

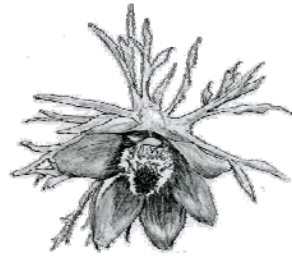
春先、花屋の店先に、オキナグサの鉢植えが並んでいるのを見て、何とも不思議な気持ちになりました。鉢植えのものは正確には「セイヨウオキナグサ」という品種のようですが、野生のオキナグサは、環境庁の絶滅危惧に指定されており、今や幻の山野草になりつつあります。

4月1日、群馬県の神成山にオキナグサを探しに出かけました。この辺りのオキナグサは、地元の方が栽培しているものだろうで、盗掘が多く、大変に憂慮しているとのことでした。

登山口の近くには、うすピンク色のミツバツジが少しばかり咲いていましたが、山の芽吹きにはまだ早く、コナラ、カシワ、クヌギなどの落葉を踏みしめて登りました。一足ごとに、カサカサと落葉の崩れる小気味良い音がします。ふと見ると、重なり合った落葉の隙間から、そこそこに可愛らしいオキナグサが顔を覗かせていました。

花は釣鐘状で、下向きに咲きます。高さ

は15センチ程度、色はワインレッドで、花全体が柔らかい白い毛で覆われています。まるで、深紅のドレスの上に、白いレースをまとった少女のようです。花が終わると、白髪のような種をつけるので、「翁」の名前が付いたそうですが、これほど可憐な花を、一体誰が「オキナグサ」と呼んだりしたのでしょうか。不思議でなりません。



【46】ウコンウツギ

6月末、知床連山の最高峰、羅臼岳に登ってきました。女満別空港に着いた時は好天でしたが、夜半から雨になりました。朝の3時に起きて、4時から登り始めました。山開きには一週間ほど早かったので、この日の入山者は、私たちを含めて10名でした。

一日中、霧がかかっている、眺望は楽しめませんでした。その代わり、ゴゼンタチバナ、エンレイソウ、ハクサンチドリ、ハンヨウヅル、ツバメオモト、エゾノツガザクラなど、沢山の高山植物が迎えてくれました。

銀冷水を過ぎると、大沢の大雪渓が、待っていました。500メートルはあったでしょうか。ここから羅臼平までは急登が続きます。一面真っ白なので、距離感がつかめません。いくら登っても、同じ場所で足踏みをしているような感じですよ。

見上げると、ウコンウツギの黄色の花が、斜面の両側を鮮やかに彩っていました。ちょうど、人の背丈ぐらいの高さです。初めて目にした花でした。「ウコン」の名の通り、淡い黄色の筒型の花で、内部には赤い模様があります。「あと少しだから、頑張ってください」とでも言いたげに、枝先や葉の付け根に、沢山の花を咲かせていました。

羅臼平まで来れば、頂上は目の前です。時折は霧も晴れ、山頂が見えてきました。凡そ6時間、花に励まされ、1400メートルを登りきりました。